

◆「幸田延の『滯欧日記』」を
三月五日より発売

日本の近代洋楽史の発展に大きな貢献をした幸田延。彼女が明治四十一年に東京音楽学校から教授職の休職を命じられ、ベルリン、ウィーン、パリ、ロンドンを旅していた八ヵ月余りの間に書いた未公開の日記を、初めて翻刻・現代語訳。

延自身もこの遊学の本当の目的を知らされておらず、スリラー小説のような趣きがあるが、遊学の意味は次第に明らかになる。



◆DVD「アニメーション専攻 第三期生
修了作品集2021」を三月七日より発売

二〇二二年三月に修了したアニメーション専攻第三期生。修了制作十四作品および一年次制作十四作品を収録し、DVDとして発売。若く未完成ながらも独創性に富んだ十四の視点で、学生たちが二年間を費やして探求した「アニメーション表現との対話」。その成果物である短編作品群は、アニメーション芸術の次のステージを予感させる。二〇二二年ベルリン国際映画祭での一期生の銀熊賞受賞など、国内外での活躍もめざましい本学アニメーション専攻の最新の作品群をぜひご覧いただきたい。



◆DVD「映画専攻 第五期生修了作品集
2021」を三月二十二日より発売

多方面で頭角を現し、期待と注目を浴びる映画専攻。二〇二一年三月には、第五期生を送り出した。本年度DVD収録の五期生が在学中に製作した『紙風船』は、大正から昭和にかけて活躍した劇作家、岸田國士の作品を豪華キャスト陣出演にて映画化ということで話題に。監督・製作・脚本・撮影照明・美術・録音・編集、それぞれの領域の学生が集大成として取り組んだ、その努力と成果があらわれた作品群である。



◆「楽譜 山田流箏曲 山田校作曲
『四ツ物全集』」を三月三十日より発売

山田流箏曲の流祖にあたる山田斗養一校（一七五七〜一八一七）が作曲した奥歌曲「四ツ物」のCD付き楽譜全集。箏、三弦の並列譜とし、曲解説、歌詞通釈に加えて実際の演奏を収録したCDを付けた。CD付き楽譜は、邦楽界及び山田流箏曲界ではまだ見られない新しい試み。また、大曲は、学生のレッスンではあまり使われていないため、学内だけにとどまらず、学外においても大変有意義な研究書物になるといえる。



東京藝術大学出版会の出版物等は、本学藝大アートプラザ、アマゾン（ネット販売）および一般書店にて取り扱っております。詳しくは、藝大アートプラザ（〇五〇—五五二五—二〇二）まで

News 2012.02 - 2012.07

交流

◆連携・協力に関する協定締結

三月二十三日、新国立劇場において、本学は財団法人新国立劇場運営財団との連携・協力に関する協定書を取り交わした。

この協定は、両者が、我が国のオペラ制作および芸術文化の発展に資することを目的とし、新国立劇場での公演・人材交流・人材育成などについて連携・協力を推進することを目的としたもの。調印式は、宮田亮平学長と福地茂雄財団法人新国立劇場運営財団理事長、尾高忠明音楽学部教授・新国立劇場オペラ芸術監督らが出席し、おこなわれた。

新国立劇場は、「国際的に比肩しうる高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公

受章・受賞

◆宮田亮平学長が「日本芸術院賞」を受賞

三月十六日、宮田亮平学長の作品「シュプリンゲン」が、平成二十三年年度日本芸術院賞を受賞した。六月十八日には、授賞式が天皇・皇后両陛下をお迎えして日本芸術院会館で開かれた。

◆小椋範彦准教授が「紫綬褒章」を受章

美術学部工芸科（漆芸）の小椋範彦准教授が、平成二十三年秋の褒章において、紫綬褒章を受章した。

◆野平一郎教授が「紫綬褒章」を受章

音楽学部作曲科の野平一郎教授が、平成二十四年春の褒章において、紫綬褒章を受章した。

◆小椋範彦准教授が「MOA美術館賞」を受賞

六月九日、美術学部工芸科（漆芸）の小椋範彦准教授の作品「乾漆削貝時給飾箱「銀碧」」が、MOA岡田茂吉賞の工芸部門においてMOA美術館賞を受賞した。

◆佐藤雅彦教授が「芸術選奨文部科学大臣賞」を受賞

三月十三日、大学院映像研究科メディア映像専攻の佐藤雅彦教授が、平成二十三年度（第六十二回）芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。メディア芸術部門での受賞であり、授賞対象はTV番組「0655」[2355]。また、「2355」内の映像表現については、D&D Professional Awards 2012においてD&D賞を受賞した。

◆小谷元彦准教授が「芸術選奨文部科学大臣新人賞」を受賞

三月十三日、美術学部先端芸術表現科の小谷元彦准教授が、平成二十三年度（第六十二回）芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した。美術部門での受賞であり、授賞対象は「幽体の知覚」展の成果。

◆伊藤有孝教授が「2nd ZLIN FILM FESTIVAL ANIMESHION部門最優秀賞・観客賞」を受賞

六月一日、大学院映像研究科アニメーション専攻の伊藤有孝教授の作品「HARBOR TALE」が2nd ZLIN FILM FESTIVALにおいてアニメーション部門最優秀賞及び観客賞を受賞した。

◆山村浩二教授が「第三十六回香港国際映画祭 火の鳥大賞」・「川喜多賞」を受賞

四月三日、大学院映像研究科アニメーション専攻の山村浩二教授の作品「マイブリッジの糸」が、第三十六回香港国際映画祭で火の鳥大賞（短編映画部門グランプリ）を受賞した。また七月二十七日には、アニメーション制作などの多彩な業績について「川喜多賞」を受賞した。

◆平成二十三年卒業式

三月二十六日、奏楽堂にて平成二十三年卒業式が実施された。
学長式辞では、「今(いま)」と「心(こころ)」が重なる「念」という文字を、「今」この時を忘れずに「心」に想いをとどめ、新たな想いを「心」にしるしながら前進する諸君を讃歌として褒められたる文字」と説明し、「三一一」後の日本を元気にするため、藝術の伝道者として大いに発信して欲しい」と大学を巣立つ若者たちを激励した。



◆平成二十四年度入学式

四月五日、奏楽堂にて平成二十四年度入学式が挙行された。
学長式辞では、宮田学長が式辞の最中に壇上で「行」という文字を揮毫(きぎ)し、「人生の岐路でど



うやって道を選ぶかを学び、どんなにその道が険しく遠くてもしっかりと目標を持ち力強く進んでいてもらいたいという思いを込めて、この字を諸君に贈りたい」と述べ、大学生生活のスタートを切る学生たちにエールを送った。



◆文化庁長官と語る会(白熱教室)

六月五日、本学陳列館二階において、文化庁長官と語る会(白熱教室)が開催された。本学の宮田学長が開会の挨拶を行った後、近藤長官により、スクリーンに投影された資料を解説しながら、「21世紀文明と文化・芸術の役割」というテーマで講演が行われた。講演中には、参加者の学生との活発な議論も交わされ、タイトルどおりの白熱教室となった。



第25号刊行にあたって

団体や協会、大学などの広報誌は、時に形骸化し、誰に向かって何のために情報発信をしているのか分からなくなって来る事があります。しかも、印刷代も置き場所も必要ないデジタルデバイスが発達したこのご時世。紙媒体の存在意義を今一度、考え直さざるを得ません。

一つ思うのは、今その時の情報を一旦抜き出して「書き換え不可能」な状態にしておく。それによって生じる「説得力」というのはデジタルメディアとは異なる大事な一面だと思います。これらの事を意識して、藝大らしく、写真の質やデザインにも気を配りながら、読んでみたい冊子、取り上げてもらいたい雑誌を目指しています。今号も、先生方それぞれの異なる切り口が色んな形で表現されており、充実した内容になっています。

藝大通信編集長
松下 計

展覧会・演奏会の最新情報は、東京藝術大学公式 Web サイト (<http://www.geidai.ac.jp/>) をご覧ください。

- 展覧会についてのお問い合わせ先
東京藝術大学大学美術館
Tel. 050-5525-2200
NTT ハローダイヤル
Tel. 03-5777-8600
- 演奏会についてのお問い合わせ先
東京藝術大学演奏芸術センター
Tel. 050-5525-2300
- 演奏会チケットの取り扱い
藝大アートプラザ
Tel. 050-5525-2102
ヴォートル・チケットセンター
Tel. 03-5355-1280
チケットびあ
Tel. 0570-02-9999
(一部携帯電話・PHS・IP 電話はご利用いただくことができません。)
東京文化会館チケットサービス
Tel. 03-5685-0650
イープラス (e+)
<http://eplus.jp/>
- 藝大アートプラザのご案内
Tel. 050-5525-2102

◆「学長と語ろう」

ゲストに和太鼓奏者である林英哲氏を招き、第十一回「学長と語ろう 奏楽堂トーク&コンサート」が開催された。会場である本学奏楽堂では、約一〇〇〇名のご来場のお客様が約二時間にわたり対談と演奏会を楽しんだ。

林氏の迫力あふれる演奏を皮切りに始まった第一部では、「今、甦る和の音と心」と題し、林氏が和太鼓を志した頃のことやこれまでの演奏活動を実際の映像を交えながら語られ、会場を魅了した。林氏が本学で毎年おこなってくださっている授業に美術学部の学生も参加しているという話から、実は林氏自身も元々は美術を志していたことが明らかで、会場を大いに驚かせた。



場全体がスタンディングオベーションとなり、感動の拍手が鳴り続けた。

◆東京国立博物館で、荻原碌山「女」複製展示

東京国立博物館にて、五月より、荻原碌山「女」(ブロンズ複製彫刻)の展示が始まった。



この彫刻は、アーカイブ研究における最新のコンピュータ三次元画像処理技術を使い、東京国立博物館所蔵の重要文化財である石膏彫刻、荻原碌山作「女」をブロンズで複製したものである。(写真前列左から、北郷副学長、銭谷東京国立博物館長、宮田学長)

◆藝大フレンズ加入者状況

加入者数
(平成二十四年七月三十一日現在)
賛助フレンズ 個人三三二名 法人四団体
特別賛助フレンズ 個人二二名

◆今年度上半期に開催された主な展覧会、演奏会記録
(「大学美術館」)

芸大コレクション展 春の名品選
会期 四月五日〜六月二十四日
入場者数 七万四九五一名
近代洋画の開拓者 高橋由一
会期 四月二十八日〜六月二十四日
入場者数 八万二三三名

《奏楽堂》

藝大フィルハーモニア定期
新卒業生紹介演奏会
開催日 四月二十日
入場者数 八三八名
上野の森オルガンシリーズ 2012
神秘のUSBACH
開催日 五月二十七日
入場者数 九八〇名

第四十六回藝大學生オーケストラ
開催日 五月二十四日
入場者数 八七〇名
藝大フィルハーモニア定期・特別演奏会
開催日 六月八日
入場者数 九八八名

東京藝大チエンパオーケストラ
第十九回定期演奏会
開催日 六月三十日
入場者数 八五四名